

サステナブルな MICE開催のための ガイドライン

Guidelines for hosting sustainable
MICE events



SAPP_URO



はじめに

MICEは、開催地への高い経済波及効果に加え、地域の知名度やブランド力の向上、ビジネス機会や新しいアイデア・技術の創出等のレガシー効果をもたらします。しかしその一方で、多くの社会的・環境的負担をもたらす側面があることが指摘され、その負担の軽減・削減のためにサステナビリティが重要なテーマとなっています。観光庁の調査¹⁾では、海外主催者の公募要件にサステナブルな取組を求めるケースが増えており、ビジネスを確保するための必須項目となりつつあること、そして、サステナビリティへの取組対象がサプライチェーン^{*}にも広がってきており、ステークホルダー^{*}や地域との協業が必要であると分析されていることから、都市全体でサステナブルなMICEを推進していく必要性が増しています。

札幌市は、2008年に「環境首都・札幌」を宣言し、環境負荷低減に配慮に関する施策などにより、持続可能なまちづくりを進めております。MICEにおいてもサステナブルな都市となるためには、MICEに関わる皆様(主催者・参加者・事業者)の理解と協力を得ながら取組を推進していくことが、さらなる国際的な誘致力の向上につながるものと考えております。

そうしたことから、MICEにおける環境負荷の現状を把握するため、市内で開催されたMICEの温室効果ガス排出量を測定するとともに、事業者の皆様やサステナビリティの専門家の皆様との意見交換を行い、サステナブルなMICE開催に求められる施策を検討し、本ガイドラインを作成しました。

本ガイドラインを通じてMICEに関わる皆様とともに、札幌市が環境や社会への負荷を最小限に抑えたサステナブルなMICEの開催地として、今後も世界から選ばれ続ける都市を目指してまいりたいと考えております。

ぜひ、MICEに関わる皆様には本ガイドラインを活用していただき、取組へのご理解とご協力をお願いいたします。

※サプライチェーン：原材料の調達から製造、販売に至るまでの一連の流れ

※ステークホルダー：団体やプロジェクト活動に直接的・間接的に影響を与える利害関係者

目次

はじめに	2
サステナビリティとは	3
サステナブルな MICE 開催にあたって	4
サステナブルな MICE に取り組む海外の先進事例	5
札幌のサステナビリティに関するあゆみ	6
札幌における MICE のサステナビリティの現況	7
ガイドライン作成にあたってのリードケース	9
サステナブルな MICE の開催プロセス	10
チェックリストの構成	11
チェックリストの活用方法	12
チェックリスト項目	13

参考

・参考文献	25
・札幌市の事例・リンク等	26

付録

・各主体のチェックリスト	28
--------------	----

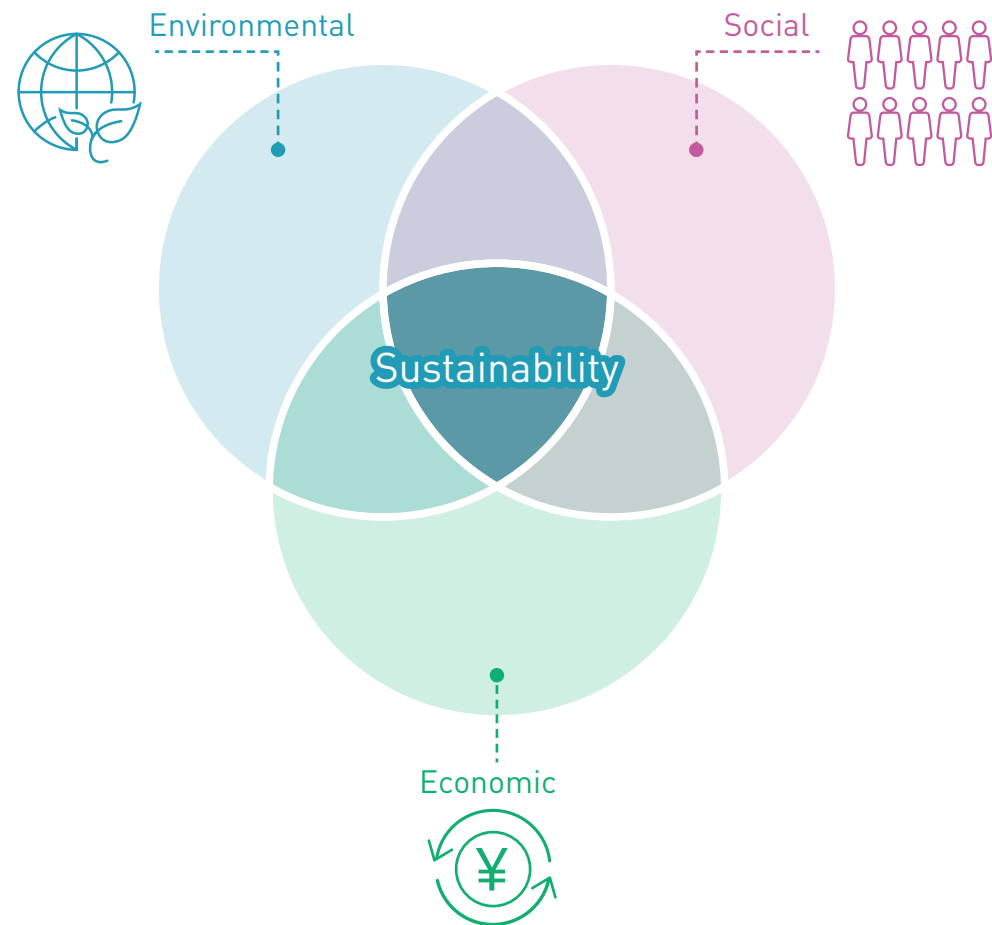


サステナビリティとは

サステナビリティは、日本語で「持続可能性」を意味する言葉であり、環境、社会、経済がそれぞれ現在の価値を失うことなく将来にわたって持続的に発展する社会を目指す考え方です。

国連の「環境と開発に関する世界委員会」が1987年に公開した、持続可能な開発について触れた報告書²⁾によって、サステナビリティの概念が注目され、これを機に、経済発展と社会的・環境的な持続可能性は必ずしも対立する概念ではなく、両立しうるものとして考えられるようになりました。

2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」により、さまざまな主体が2030年に向けて取り組むこととなりました。企業向けに環境省が作成した「持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド」³⁾では、企業が持続可能性を意識した取組を実践する必要性やSDGsを進めることにより企業イメージの向上、新たな事業機会の創出が期待できるなど、企業の持続可能な発展につながる経営や事業展開を図る必要性について示しています。



持続可能な事業発展には、
環境・社会・経済の3要素における健全なバランスの上に成り立ちます

環境[Environmental]：地球の能力が保護されるよう確保すること。

社会[Social]：社会に対する公平性と尊重を確保すること。

経済[Economic]：利益が環境と社会のニーズに合致すること。

出典：Barcelona Convention Bureau「Barcelona sustainable events guide」



サステナブルなMICE開催にあたって

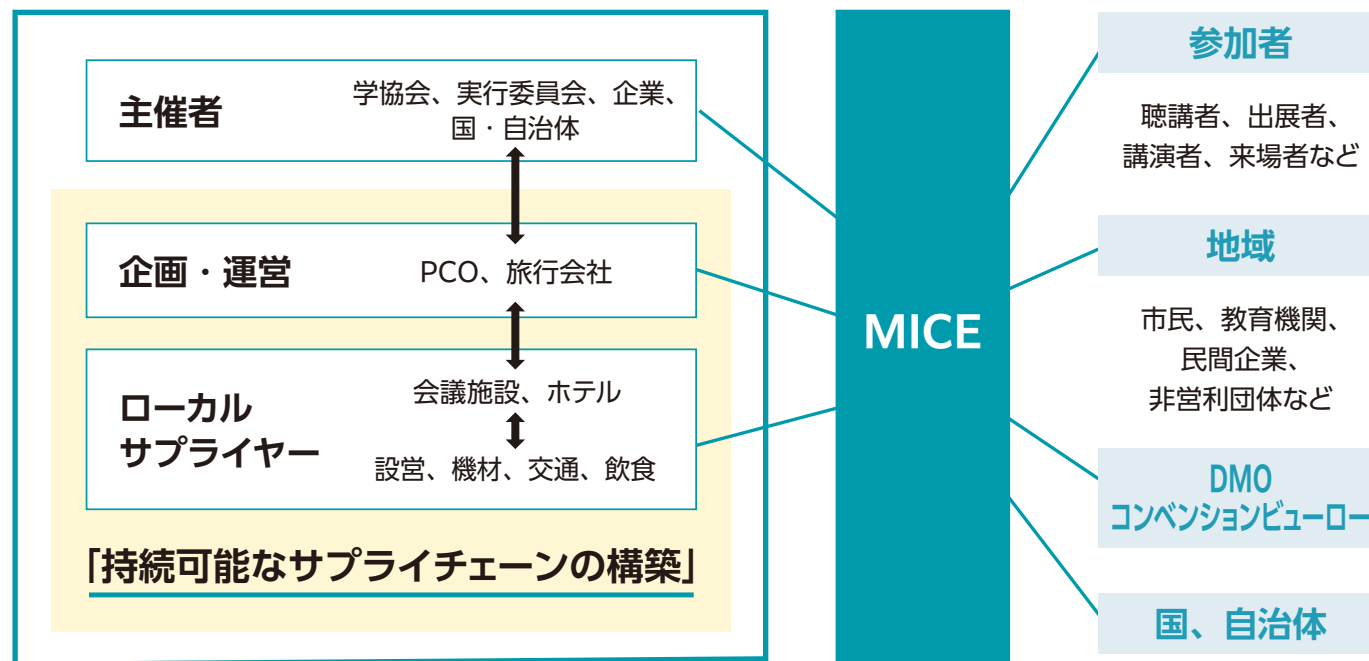
国連環境計画(UNEP)では、サステナブルなイベントを「潜在的な負のインパクトを最小限に抑え、開催地と関係者全員に有益なレガシーを残すべく設計、計画、実施されるイベント」⁴⁾と定義しています。

また、2012年には、国際標準化機構(International Organization for Standardization)がサステナブルなイベントを開催する国際規格であるISO 20121⁵⁾を発表し、国際的なコンベンション・展示会・スポーツイベントを中心にMICE開催時にも活用されています。

近年、サステナブルなMICEの開催は主催者の大きな関心を集めており、開催地はそのような主催者ニーズを満たす受入環境を整備することが求められています。そのため、MICE開催に関わる事業者と開催地が、それぞれサステナブルなMICEの開催を意識し、連携して取り組む必要があります。

MICEに関わる ステークホルダー

MICEは会場、宿泊、飲食、輸送等の産業としての裾野が広く、さまざまなステークホルダーが存在します。各ステークホルダーがサステナビリティに関する方針を策定し取組を進めることに加えて、今後は、取引先にも方針を共有し協働で取り組む「持続可能なサプライチェーンの構築」をすることが、サステナブルなMICEの開催につながります⁵⁾。





サステナブルなMICEに取り組む海外の先進事例

受入環境の整備に取り組む開催地

タイ・バンコクは、2012年にサステナブルMICE方針を策定するなど戦略的に取り組んでおり、市内事業者の第三者認証取得や、ステークホルダー間をつなげる取組を積極的に推進している。近年GDS-Index(6ページ参照)にも参加し、サプライヤー・DMOの項目で高い点数を獲得しており、MICE関連事業者の取組が高く評価されている。

サステナブルマスタープラン⁶⁾の作成

タイのコンベンションビューロー(Thailand Convention and Exhibition Bureau)を中心に、2016年にサステナブル・デスティネーション・マスタープランを作成。

タイのコンベンションビューローによるガバナンスや各ステークホルダーの連携など、サステナブルなMICEの取組を推進するための枠組みを5年間かけて強化することを表明。



第三者認証取得支援⁷⁾

タイ国内のホテル・MICE施設事業者を対象に、ISO20121の取得を支援。一部費用の助成や、取得に向けた教育プログラムなどを作成。

主催者によるサステナブルなイベント方針・取組

毎年開催される、世界最大のMICE見本市「IMEX Frankfurt・IMEX America」は、イベントごとにサステナビリティレポートを公表している⁸⁾。出展者・参加者に取組を呼びかけるほか、主催者自身も専門のコンサルタントと連携し、サステナブルな調達、廃棄物・CO₂排出量の計測をするという実施方針を立て、複数年にわたって取組を続けている。

また、飲食物の調達方法や廃棄物の処理方法までを把握し、サプライチェーン全体でサステナブルな取組が執られるよう配慮している。

▼ イベントでの目標



▼ 布製の看板

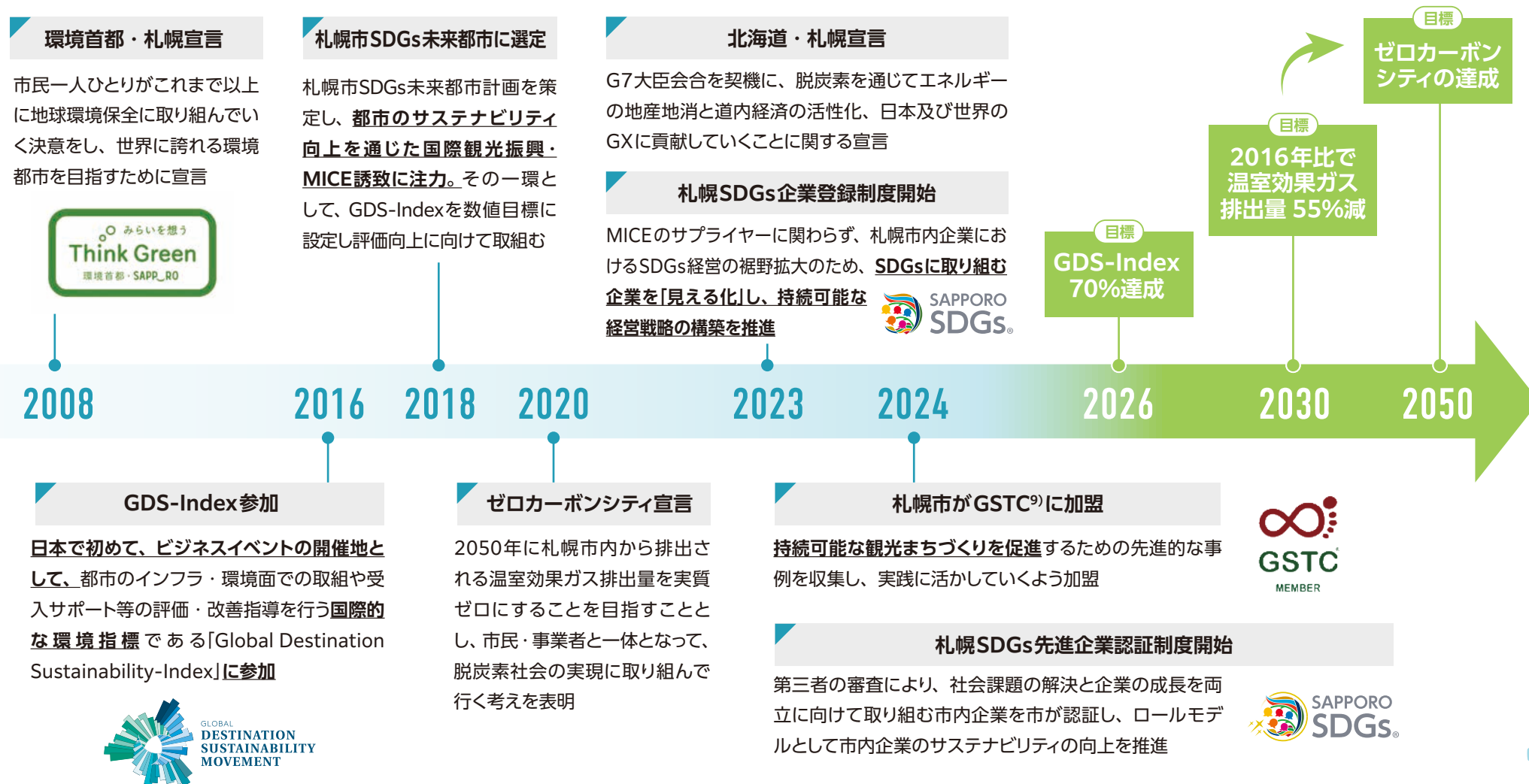




札幌のサステナビリティに関するあゆみ

札幌では長くサステナビリティに取り組んできており、現在は特に、脱炭素社会の実現に向けて、2050年までのゼロカーボンシティ達成を目指し、建物の省エネ化に加え、再エネの導入や水素エネルギーの活用推進などの取組を進めています。

また、MICEにおいてもGDS-Index(下図参照)に参加し、「札幌市SDGs未来都市計画」において都市のあるべき姿と実現に向けた目標を設定して積極的に取り組んでいます。





札幌におけるMICEのサステナビリティの現況 1

札幌市では、市内で開催されたMICEの主催者や運営事業者の協力を得て、会場のエネルギー使用量や機材・備品手配の状況、参加者の移動・食事手配等の情報を集めてCO₂排出量を計測¹⁰⁾し、MICEでの温室効果ガス排出量を低減させるための施策を検討しました。

CO₂ 排出量調査

前提条件

- ・「移動」は移動距離をベースに、その他の項目は手配金額をベースに、CO₂排出量を算出。エネルギーや廃棄物の排出量が不明の場合は除外。
- ・総排出量は札幌市に入る前後の航空機移動が占める割合が総じて高かったが、**開催地でコントロール可能なものに絞込むため、開催地外での排出分を除外した数値に注目した。**

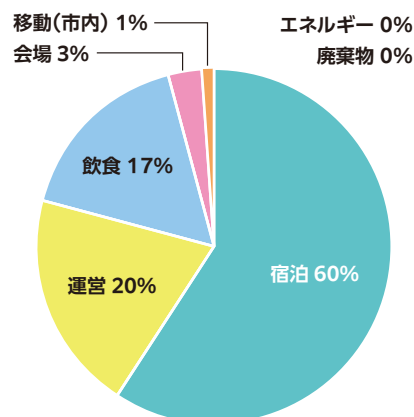
事例 1

国際会議A：総排出量約6,809トン

開催日数：4日間 | 参加人数：800人

会場：札幌コンベンションセンター

航空除く排出量：255t



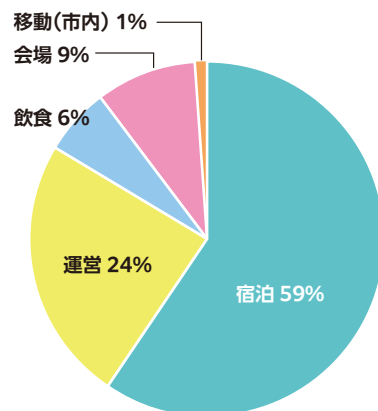
事例 2

国内学会：総排出量約510トン

開催日数：3日間 | 参加人数：1,800人

会場：市内ホテル

航空除く排出量：228t



【調査結果・分析】

会場

会場からの排出割合は小さいが、**効率化(節水、節電等)を図ることでさらにCO₂削減が見込める。**

エネルギー

札幌コンベンションセンターは再生可能エネルギー使用施設であり、**CO₂排出量は実質ゼロとなったため、施設の使用するエネルギーにより環境に配慮したMICEが開催可能。**

宿泊

航空移動を除くと宿泊の排出割合が高く、**他の分野に比べ削減効果が出やすい。**

運営

会場装飾や展示にかかる施工や映像機器手配が発生するため排出割合が高い傾向。**市内事業者からの調達や会場常設備品を利用することで、輸送等によるCO₂の削減が可能。**

飲食

飲食は会議によって傾向が異なるが、**地産地消により食のブランド力を活かしつつ食材輸送のCO₂排出量の削減が見込める。**

廃棄物

ペーパーレス化が進んでいることと、**運営事務局で把握できた廃棄物が少ないため計測結果が少なく出た。**廃棄物を抑制するには、現状把握や廃棄方法まで含めてサプライチェーンを正確に把握することが重要。

※データ収集ができなかったため、エネルギー、廃棄物は計測不可により除外



札幌におけるMICEのサステナビリティの現況 2

札幌市内で行われたサステナブルな取組

CO₂排出量調査において主催者や事業者が実施していた、サステナブルな取組事例を紹介します。

事例1

国際会議A (4日間、800人参加)

当初は什器や機材等を海外から輸送する計画だったが、海外からの空輸はCO₂排出量が大きいため、地元の運営事業者と主催者との協議により市内調達に変更したことで、CO₂排出量を大幅に削減。
また、学会のホームページでサステナブルな取組を実施するホテルを参加者へ案内し、宿泊でのCO₂排出量も抑制。

アメリカからの什器備品空輸との比較

アメリカ 68.4t 想定



施設・市内調達 8.5t

約60t
減!



カラマツ380本分抑制¹⁰⁾

事例2

国際学会B (8日間、1,500人参加)

会場となった札幌コンベンションセンターは、再生可能エネルギー100%電力を使用している。
学会中の電力消費量は88,532KWhであったが、通常の電力が使われた場合と比べて、約47,400kgのCO₂排出を抑制。

通常電力との比較

通常電力 47.4t 想定



札幌コンベンションセンター
0t

約47t
減!



カラマツ300本分抑制¹⁰⁾

事例3

国内学会 (3日間、1,800人参加)

懇親会において、地元食材を使用したメニューを積極的に採用することにより、食材の輸送時におけるCO₂排出量を低減。なお、他のMICEにおいても道産食材を使用したメニューが提供されており、食のブランド力を活かした取組は札幌の特色。

コース料理9品に5品目の道産食材を使用

⇒ メニューの55%が地産地消

本調査により、サステナブルなMICEの開催には、市内事業者のCO₂排出量低減に寄与する取組を明確化し、取組の促進をするとともに、主催者・参加者側の取組への協力・理解の促進が重要であるという報告が示された。



ガイドライン作成にあたってのリードケース

2024年12月、国際会議「第20回世界冬の都市市長会議」が札幌市内（札幌コンベンションセンター等）で開催され、8か国から21都市・団体の市長らが参加しました。当会議は、事務局を担う札幌市国際部が当ガイドラインのチェックリスト案を踏まえた取組を実践したほか、独自の取組も行われたことから、市内におけるサステナブルMICEのリードケースとして紹介します。

取組1 廃油のアップサイクル

第20回世界冬の都市市長会議では、レセプションの食事準備・提供の過程で出た廃油をバイオディーゼルに転換し、同時期に市内・大通公園で開催されていた「さっぽろホワイトイルミネーション」の発電に活用しました。

取組をレセプション担当のホテルに説明したところ、取組の趣旨にご賛同いただき、会場となったホテルにとどまらず、系列のホテルで同時期に出た廃油も回収してもらうことができました。回収した油は回収業者の工場で加工後、イルミネーションの運営企業に送られました。関係する事業者が取組に対する理解があったため、スムーズに実施することができました。

会議参加者向け視察ツアーでは、イルミネーションの視察も行われ、この廃油のアップサイクルの取組についても参加者へ説明されました。



取組2 サステナブルな記念品

今回の会議では、参加者向けの記念品としてコングレスバッグ等を配布しました。

世界冬の都市市長会は「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、世界中の冬の都市がまちづくりを学ぶ国際ネットワークです。第20回市長会議のメインテーマを「冬の都市の新たな可能性～持続可能な社会の実現～」とし、持続可能な社会を目指す中で、冬の都市の新たな可能性として、どのようなものがあるのか、環境や都市開発、観光、文化芸術などに関する発表や議論を参加者が行いました。

このような背景もあり、フェアトレードタウンである札幌市ならではの記念品として、フェアトレードコットンを使用したコングレスバッグや、繰り返し利用が可能なステンレスボトル・竹製カトラリーなど、サステナブルな記念品を作成しました。



ガイドラインの作成を受けて（会議事務局より）

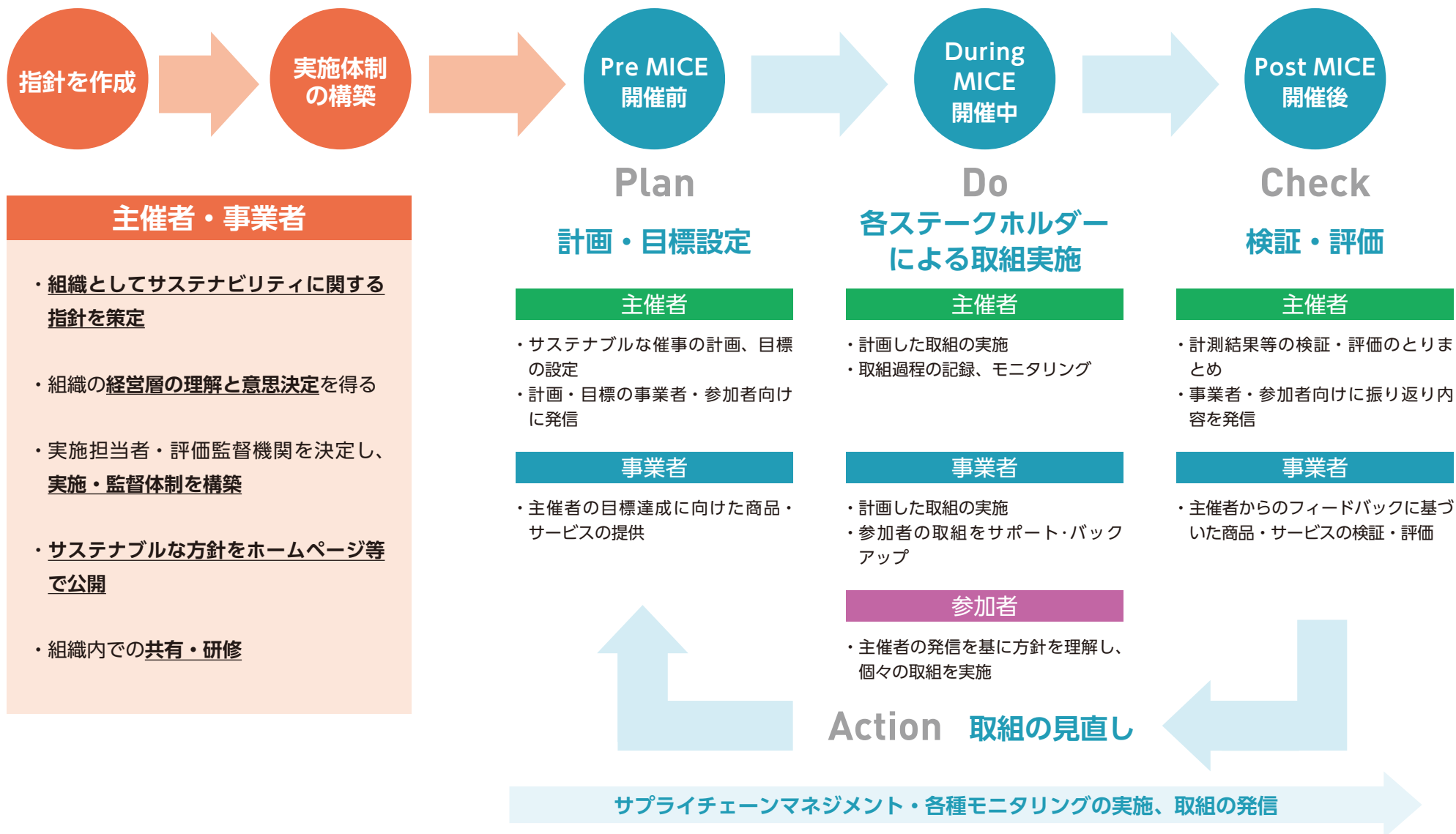
今回のガイドライン・チェックリストの作成にあたって、さまざまなサステナブルな視点や取組があることを改めて学びました。参加者への対応として行った多様な食文化への配慮が、サステナブルな取組としてより効果的にアピールできる可能性がある気づきもありました。また、記念品の事例では、サステナブルに配慮した場合でも、価格に大きな差がないなど、従前のイメージとは社会も変わってきていると感じました。 会議準備の早い段階からガイドラインの内容を確認し検討することで、サステナブルな取組の幅が広がると思います。

今回の会議で行った内容は参加者から好意的に受け止められており、これからMICEに関わる皆様にも取組の一環として参考にしていただけますと幸いです。



サステナブルな MICE の開催プロセス

MICEの開催においては、組織として基本的な指針を作成し、サステナビリティに取り組む体制と方針を構築したうえで、各催事の計画・目標の設定(P)、具体的な取組の実施(D)、取組の検証・評価(C)、取組の見直し(A)のPDCAサイクルを繰り返すことで、主催者はよりサステナブルなMICEの開催、事業者は主催者ニーズに合った商品・サービスの提供が可能となります。





チェックリストの構成

サステナブルな方針の策定や取組内容の検討、実施の参考としていただくため、海外先進都市で行われている事例や第三者認証制度の要求項目、札幌市や市内事業者の取組等を踏まえ、推奨される取組をチェックリストとして整理しました。

指針

これからサステナビリティへ取り組む際に、根本的な姿勢や考え方を明確にすることで、各論の方針も同じ方向性で立てることができ、指針の共有をすることで組織がまとまって取り組めるため、初めに指針を立てる構成としました。

概要・全般

サステナブルなMICEの取組方針を立てる際に必要な社会、環境、経済、情報発信の4つの指標について記載しています。

社会活動での取組



- ・開催地への貢献
- ・DEI(多様性・公正性・包括性)の推進

環境活動での取組



- ・CO₂排出量の測定、削減
- ・廃棄物量の測定、削減

経済活動での取組



- ・サステナブルなサプライチェーン形成方針を策定
- ・地域経済の活性化へ貢献

情報発信



- ・サステナブルな催事方針の対外発信

MICEの開催に関する分野ごとに、上記方針に基づいた取組内容を記載しています。(一部抜粋)

会場

- ・再生可能エネルギーを活用する
- ・水・エネルギー利用を低減する
- ・使い捨て容器等の利用を低減する、ごみ分別を標記する
- ・サステナブルな取組を発信する

移動

- ・飛行機が不可欠な札幌への移動について、カーボンオフセット募金等によりCO₂の削減をする
- ・札幌市内の移動を公共交通等により効率化しCO₂の削減をする

宿泊

- ・再生可能エネルギーを活用する
- ・水・エネルギー利用を低減する
- ・アメニティの削減や環境に配慮したものの置き換えを進める
- ・サステナブルな取組を発信する

施工 / 手配物 (調達)

- ・装飾や配布物の省略・置換により廃棄物を削減・抑制する
- ・市内事業者やサステナブルな商品を提供する事業者を選択する

飲食

- ・食事の提供数管理や食品廃棄物の堆肥化等により廃棄物を削減・再生利用する
- ・地産地消により食品輸送によるCO₂を削減する
- ・豊富なメニューにより食の多様性に配慮する

サイドプログラム

- ・市民や開催地の文化等に関わる内容とすることで、地域にレガシー効果を残す
- ・開催地への好影響をもたらすプログラムを実施し、広く発信することで会議の意義や市民認知度を向上させる

それぞれの取組には、右記の基準で難易度を設定しています。実施にあたっての優先度を検討する参考にご活用ください。

基礎

発展

Basic (ベーシック)

Medium (ミディアム)

Advanced (アドバンス)

基本的な取組(経済的・人的コストがほぼかからないもの)

自社の工夫で実施ができるもの

認証制度で求められる高水準のもの / ハード整備が必要なもの

実施主体

右記の通り分類し、別冊にて主体ごとのチェックリストを作成しています。





チェックリストの活用方法

チェックリストは、サステナブルな取組の現状把握をする自己分析ツールや、方針・取組内容を決める際にぜひご活用ください。具体的な活用の流れは、下図のイメージを参考に取組んでいただければ幸いです。

また、主催者の皆様には、サステナブルな事業者を選定する際のコミュニケーションツールとして活用していただき、事業者の皆様には、主催者に向けて、チェックリストで実践している取組内容や商品・サービスを公開することで、新たなビジネスチャンスの創出につながる可能性も期待されますので、ぜひ参考にしてください。

